

# INTEGRATED REPORTING <IR>

## IIRC ニュースレター：2018年12月号

### 日程を押さえてください！

IIRC の 2019 年度公式コンファレンスは、  
2019 年 5 月 16 日～17 日に  
イギリスのロンドンで開催されます。  
詳細はこちらから…

#### 「質問の影響」

Dr CT van  
der Lugt  
シニアアソシエイト、  
BSD  
コンサルティング  
(チューリッヒ)

#### 「米国における 統合報告」

Bob Laux,  
IIRC 北アメリカ代表

### 2018 年の重要な 事象の振り返りと、 2019 年の展望

2018 年は、多元的思考と意思決定および近代的なコーポレート・ガバナンスの原則として、統合報告が導入され始めた年だった。

そこで、統合報告書の世界的な標準化に向けたイノベーション、推進力、意識の向上によって新たな成功の年の終わりを迎えるにあたり、IIRC チームはその年の印象的な瞬間を振り返る。

最も注目すべき成果の一つは、戦略のブレイクスルー・フェーズ

の完了であり、これに続いてモメンタム・フェーズを立ち上げた。その過程で、コーポレート・ガバナンス改革を戦略の中心に据えることを含め、IIRC の将来の成功の原動力を特定し、明確にした。

戦略レビューでは、企業の報告環境に影響を与えるメガトレンド、すなわち、より包括的な資本主義モデルへの移行、持続可能な開発、およびビジネスモデルに対するテクノロジーの影響について、より明確な洞察が得られた。

2019 年には、私たちは、これらの現在の巨大潮流と、金融の安定と持続可能な開発を推進するために国際的に見なければならぬ変化との関連の文脈に「統合報告」を置き、「改革の理論」に向けて、私たちの理事国と協働する。

戦略を開始するにあたり、私たちはまた、McKinsey & Company のシニア・パートナーで元グローバル・マネージング・パートナーの Dominic Barton 氏を IIRC の議長として迎えた。Barton 氏は、ビジネス戦略、長期投資へのシフト、そして資本主義の将来についての先見的な考えを持っており、統合報告をグローバル基準にするという IIRC の使命を推進している。

規制の分野では、より緊密な連携と統合が求められており、コーポレート・ガバナンスの重要な柱としての統合報告の確立に向けてさらなる進展が求められている。日本、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアなどの国では、規制の強化とコーポレートガバナンス・コードの推進が「統合報告」に向けて一歩前進している。

世界的な規模では、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成と気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 勧告の実施において、「統合報告」が果たす役割が認識されている。

また、3 年ぶりに、IIRC がアルゼンチン議長の下で B20 に参加したことを受けて、整合性とコンプライアンスに関するタスクフォース報告書の中で、長期的な投資を促進する上で果たすことができる役割について、「統合報告」に関する勧告が出された。

東南アジアでは、2017 年に予測していた 20 社を上回り、60 社のマレーシア企業が統合報告を採用していることをマレーシ

「統合思考は  
21 世紀のビジネスを  
再構築するための  
モデルです  
—この  
イノベーションを  
共に推進しましょう

Jyoti Banerjee、  
IIRC 戦略  
アドバイザー

「企業の情報開示、  
経営、考え方の変革」

Thomas  
Odenwald、  
IIRC パートナー  
アソシエイト

**Amec と  
La Française  
Group**

インベスター  
ステートメント  
に署名する  
最新の組織  
統合報告作成の  
サポートを伝える

**最新の出版物：**

南アフリカの  
統合報告委員会：  
統合報告書の  
バランスの実現

ア証券によって確認されるなど、勢いが続いている。

私たちは各地域で「統合報告」への意識の向上を促してきたが、中国での統合報告の採用を進めることが、戦略のモメンタム・フェーズにおいて重要な焦点となるだろう。2018年には、企業や投資家、学者との会合のために財務省の招きで、2回連続で中国を訪問した。

一方で、IIRCの技術的な作業は、統合報告の採用を支援し、進展させるために発展し続けている。10月、IIRCは2018 Technical Programme Progress Report (技術プログラム推進報告 2018) を通じて主要な技術的成果を共有した。この報告書では、長期にわたるガイダンス、研究、および他の人々との継続的な対話を含む約40のイニシアティブの状況が詳述されている。

この度、新たに「統合報告学術データベース」が稼働した。これは、「統合報告」を採用することがもたらす潜在的なプラスの影響に焦点を当てた200以上の学術研究と、新たなベストプラクティスについてのコメントをまとめたものである。

2019年第1四半期には、「よく寄せられる質問 (FAQ)」を含むガイダンスを公開し、主要なステークホルダーが「統合報告」について抱いている最もよくある質問に回答していく予定だ。

「統合報告ビジネスネットワーク」の関係者のリーダーシップや、私たちの理事会メンバーのアドボカシーを含む私たちのパートナーの支援は、「統合報告」に向けた進展の要であり続けている。

研修、アドボカシー、調査を通じてインドのパートナー企業を支援した結果、30社が本年統合報告書を作成した。

米国で行われた新たな「統合報告ワーキンググループ」のモメンタムの背後では、各地域で新たな勢いを生み出している。

日本では、国際コーポレートガバナンス・ネットワーク (ICGN) との共同会議を行い、日本公認会計士協会と東京証券取引所のパートナーのおかげで大きな成功を収めた。各地域での自主的な採択は、より強く進み続けており、今回の会議は、これらの進展を世界に示す絶好の機会であった。

2018 年はまた、世界銀行およびアフリカ会計士連盟 (PAFA) の後押しもあり、新しく発足したアフリカ統合報告委員会の推進活動により、アフリカ全体において統合報告の便益に大きな関心が寄せられた。とりわけボツワナ、ジンバブエ、モロッコなどの国々では、PAFA の会議により統合報告の理解促進が図られた。

私たちのグローバルな「統合報告ビジネスネットワーク」は、思考、行動、コミュニケーションの境界線を押し広げていることで世界の主要なビジネスを呼び集め続けている。今年の主な進展には、「統合報告テクノロジーイニシアティブ」が含まれている。これは、テクノロジーがどのようにして会社がデータを分析、使用、伝達する方法を向上させることができるかを調べるために、主要なテクノロジー企業が一堂に会するものである。「最高情報責任者ガイド」の出版を通じて、より優れ、より統合された企業レポートをサポートする情報アーキテクチャを構築するためのステップを特定している。

また、「統合報告ビジネスネットワーク」の小グループが統合思考と戦略について特に関心のあるグループを立ち上げ、統合思考を理解しビジネスに組み込むための新しいモデルを推進した。このグループは、2018 年 10 月にパリで行ったイベントでの成果を中間報告書として発表した。

オーストラリアでは、世界会計士会議が統合思考の発展について世界中の会計士と協力する絶好の機会となった。会計専門職は、組織の価値創造プロセス全体にわたってリーダーシップを発揮するために、従来の財務の専門知識を超えて進化し続けている。

また、この機会を利用して、コーポレートレポーティングダイアログでは、「better alignment (より良いアラインメント)」プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトでは、主要な国際的な企業報告基準設定者とフレームワーク提供者が、企業の報告環境におけるより良い整合性を促進することに焦点を当てた画期的な 2 年間のプロジェクトを発表し、企業が資本市場と社会の情報ニーズを満たす効果的で一貫性のある開示を準備しやすくする。シドニーの会計士会議から、私たちはロンドンで開催されているブルームバーグ・サステイナブル・ビジネス・サミットにつなげてライブをし、報告書の世界の混乱をなくすために共

同で取り組んでいる。このプロジェクトは、マルチ資本からの報告の改善につながる見方につながり、リスクと機会の性質が変化していることを考えると、これは資本の長期的かつ効率的な配分に不可欠である。

このプロジェクトの発表は、報告書作成者、ユーザー、および政策立案者から大きな支持を得ている。

2018年の初め、投資家グループが報告書を発表した。これは、統合報告を「望ましい最終目標」と結論付けながら、統一されたアジェンダを追求するコーポレートレポーティングダイアログを奨励するものである。

このアジェンダに対し投資家の声はますます高まり、現在20以上の投資家組織が私たちのインベスターステートメントに署名し、資本配分の決定における統合報告の重要性を確認している。

## 2019

2019年には、米国や中国の主要市場を含む、報告のペースと規模が加速している市場に引き続き焦点を当てる予定だ。また、南アフリカ、日本、オランダなどの最初の「主流」市場と緊密に協力し、報告慣行の一貫性の向上を含め、先進的な事例を把握する。特に、私たちは、市場主導の採用を奨励するために、関連組織との会合や規制当局の影響力を活用することを計画している。

投資家や代表的な投資機関との連携を進め、CFA協会やPRIなどとの連携を強化していくことで声明やパートナーシップを積み上げていく。また、「統合報告フレームワーク」が投資家のニーズにどのように対応しているのか、特に組織がより長期的な視野に立ち、ESGをその実践や成果に組み込むためにはどのように対応しているのかを示す。

その一環として、統合思考・戦略に特に関心のあるグループの主要企業と連携を深め、取締役会との連携を図り、両社のマルチ資本価値創出プロセスとより広範な資本市場システムの役割を強調するとともに、「統合報告」の導入による便益を評価する。

全体として、私たちは、SDGから、IASBの運営実務慣行の見



直しや、公的な企業報告の欧州委員会レビューからTCFD勧告の組み込みへと、統合された企業報告システムを推進するイニシアティブの中心にいる。

統合報告の関心と実施が拡大し続ける中、2019年はIIRCのすべての面でエキサイティングな年になることが約束されている。

新年も皆様と協働できることを楽しみにしています。

## 新しいアライメント プロジェクトは、 ビジネスレポーティングで 「人目を引く」ことができる

IIRCの最高経営責任者であるRichard Howittは、最近発表された「*Corporate Reporting Dialogue Better Alignment Project*」の背景にある考え方について見解を示した。

企業は生き残るために変化しなければならないことを知っている。「business as usual (何も手を打たずに従来どおりの状況)」という概念は冗長になった。

人工知能が今日のビジネスモデルをいかに根本的に破壊するか、ビジネスと社会の間の契約がどのように破綻しつつあるか、そして気候変動への適応が化石燃料資産だけでなく、それに依存する産業全体をどのように縛り付けるかについて、現在のビジネス界では恐ろしい警告を聞くのが普通である。

もちろん、これらの課題に対する単一の答えはない。

しかし、2010年ごろにIIRCを設立する際に集まった企業、投資家、規制のリーダーたちによる世界的な連合は、企業がより長期的で相互に連結したアプローチに移行することが可能であり、最終的には価値を創造するための企業の継続的な役割を維持できると信じていた。

長期的な価値創造の目標に焦点を当てたビジネスレポーティング改革―「統合報告」―は、これを達成するための重要なツールであり、また、そう見なされるようになった。

今年に入って、IIRC 理事会が設定した「ブレイクスルーテスト」がすべて満たされたと評価され、統合報告の世界的な採用に向けた新たな戦略段階「モメンタム・フェーズ」の発表が行われた。

しかし、報告制度の改革が変革の重要な推進力となり得ることを市場が明確に理解している一方で、さまざまな矛盾した報告制度が普及しているために、報告の改善ができないという認識が広まっていることが、繰り返し障害となっている。

国際貿易センターは、80 以上のセクターと 180 カ国に適用可能な 230 以上の企業のサステナビリティ基準イニシアティブを特定している。これらはすべて、極めて多様な略語を使用している。

企業はいわゆる「アルファベットスープ (略語)」の洪水に首を絞めている。

そこで、世界の企業報告に整合性を持たせることを明確な目的としている IIRC は、財務報告の基準設定者 (IASB、FASB) と 4 つの最も包括的でグローバルなサステナビリティの枠組み (GRI、SASB、CDP、CDSB) を一堂に集め、異なる報告枠組み間の明確性、統一性、一貫性、比較可能性を追求した。

まだ多くの略語が使われているが、ビジネスレポーティングで「人目を引く」ことができるという現実的な見通しを示している。

この対話はすでに素晴らしい協力を生み出しており、各フレームワークがどこに位置しているかを示す共通のランドスケープ・マップを発表し、両者の間には競合する点があるという考えに直面している。

彼らは、マテリアリティの重要な概念に関する原則の共通の声明に合意し、次の振り返りでそれに向かって進むことに合意することによって、連携のプロセスを開始した。

投資家の要求、国連の持続可能な開発目標、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の勧告に、枠組みが総じてどの

ように対応するかについては、共通の立場があった。

そして、重要な2年間に及ぶプロジェクトを発表した。このプロジェクトでは、フレームワークが共同作業を行い、指標をマッピングして調整し、非財務指標と財務結果との関係を特定し、最終的には財務情報と非財務情報の統合に向けたパラダイムシフトを目指している。

第1段階では、TCFDの推奨事項との整合を図るが、それをはるかに超えるものを目指す。

これは、フレームワーク間の内部的な技術的な演習ではなく、市場がその結果に関与する準備ができており、待ち望んでいることを確認するために構造化されたコミュニケーション、アウトリーチ、および利害関係者の関与による開かれたプロセスである。

市場からは、フレームワーク間の整合性を高める必要があるとの声が上がっている。このプロジェクトは、このメッセージを耳にし、実行中であることを明確に伝えている。

「統合報告」はコーポレートレポーティングダイアログにおいて、既存の枠組みに代わるものとしてではなく、さまざまな報告書がまとめられる「傘」として見られている。

すでに「統合報告」を採用している1,600社のグローバル企業は、その多くがマネジメントコメントリーや年次報告書の財務報告で採用しており、実際には、今後10年間の企業レポートの世界的な標準となると予想されるものを採用している。

この「より良いアラインメント」プロジェクトは、私たちの仕事の一つの側面にすぎない。グローバルな会計専門家は、財務報告の未来として「統合報告」にコミットしている。国際的に増加している証券取引所のガイダンスとコーポレート・ガバナンスコードにおける統合報告の必要性と、IIRCが企業のナラティブ報告に関するガイダンスをレビューする際に、国際会計基準審議会の諮問グループに任命されることを求めている。

さまざまな環境、社会、ガバナンス(ESG)の指標をさまざまなサステナビリティの枠組みの間で整合させることは、IIRCの主



導的役割によって進められた新たなコーポレートレポーティングダイアログのより良いアライメントプロジェクトの重要な構成要素であり、私たちは共にすべての参加者間の真のパートナーシップの構築を支援してきている。

しかし、異なるサステナビリティ報告の枠組みを調整するだけでなく、財務報告と非財務報告の真の統合を最終的な目標とするプロジェクトとして、一つの要素にすぎない。

この記事の冒頭で概説した、ビジネスに影響を与える急速に変化するトレンドは、「非財務的」というよりも、金融不安、リスク、機会の源泉として理解され、非常に現実的な財務上の成果をもたらしている。

TCFD 自体が転換点であり、気候は単なる生態学の問題ではなく、経済的な問題とみなされる。

無形資産の増加については、投資家を対象としたある調査で、90% 以上がこの情報を総合的な報告書に記載されていれば、有用または不可欠と考えていることが示された。

このように、私たちは投資家の基準を満たす指標を追求し、良い会計原則を適用し、それらが統合された報告自体に対する準備ができているかどうか評価されるような新しいアラインメントプロジェクトを探している。

このプロジェクトから一つの調和されたレポーティングフレームワークにたどり着くという意味ではない。

各フレームワークは、それぞれのフォーカス、オーディエンス、ガバナンスに合わせて調整される。しかし、可能な限り調整を行う真の意図がある。

フレームワークの観点から見たプロセスの美しさは、それが、勝者と敗者を生み出すのではなく、すべての人が勝利できるような収斂のプロセスを追求することによって企業報告に調和を呼び込むことにある。

企業にとっては、IIRC の報告の目的である、より簡潔で重要であり、ビジネス自体の価値創造を目的としていることに貢献する

ことによって、質問票の疲労と報告の負担に対処することができる。

資本市場とその規制当局にとって、本プロジェクトは、より広範なマルチ資本の観点に基づき、リスクと機会の価格換算の改善に貢献する。

持続可能なビジネスを推進し、パリ協定と持続可能な開発目標の達成に企業が貢献することを望むすべての人々にとっての真の価値は、この調整への取り組みが、彼らの願望をビジネス思考の主流に持ち込むのに役立つことである。

調査によると、今日 S&P のトップ 500 企業の 75% が非財務報告書を公表しており、これは素晴らしい数字だ。しかし、年間売上高が 10 億米ドル未満の世界のトップ 4,000 企業の 75% はそうではない。ヨーロッパの上位 42,000 社の調査によると、この数字は 94% に上るといふ。

この数字を変えることの障害が市場の混乱だとすれば、私はこのプロジェクトによって企業が財務と非財務の統合に向けてどのフレームワークを選択するかということが、はるかに重要でなくなることを望む。

どちらのルートを通っても、最終的には同じ目的地に着くだろう。

「コーポレートレポートングダイアログ」は、企業のレポート環境に大きな影響を与える主要な基準設定者とフレームワーク開発者との間の対話と連携をグローバルに実現するための主要な作業メカニズムとして、4 年前に立ち上げられた。これらには、CDP、CDSB（気候変動開示基準委員会）、FASB（米国財務会計基準審議会）、GRI、IASB（国際会計基準審議会）、ISO（国際標準化機構）、SASB（米国サステナビリティ会計審議会）が含まれ、IIRC により招集される。

この共同プロジェクトでは、FSB（金融安定理事会）の TCFD が公表した勧告と基準を整合させる作業を行う。この新しいプロジェクトを通じて、参加者は、それぞれのサステナビリティ基準とフレームワークをマップ化して共通点と相違点を特定し、異なる焦点、オーディエンス、ガバナンスの手順を考慮しながら、より良い調整を達成するために、重複する開示とデータポイントを共同で精緻化し、継続的に改善する。参加者は、非財務の

指標が財務上の成果とどのように関連しているか、また、これを主要なレポートにどのように統合できるかを特定する。

「コーポレートレポーティングダイアログ」の中でこのプロジェクトを実施する上で重要なことは、財務報告と非財務報告を統合するという最終的な目的に沿って、財務基準設定主体の概観を用いてこの作業を行うことである。

このプロジェクトを実施するにあたり、企業報告ダイアログの参加者は、企業報告の論理性、一貫性、および比較可能性の目に見える改善に焦点を当てている。これにより、マルチ資本の観点からの報告が改善されるだろうし、このことはリスクと機会の性質が変化していることを考えると、資本の長期的かつ効率的な配分に不可欠である。

シドニーにおいて、コーポレートレポーティングダイアログ議長の Ian Mackintosh 氏は、次のように述べている。「企業報告制度のさまざまな要素は、可能な限り調和的に機能はしておらず、その結果、企業報告は明確な目的を持たない明確な定義の下で、相反する目的を追求しているように見える。」

「報告の疲労に対処し、負担を軽減し、より効果的な企業報告を可能にするために、より適切な連携を促進することが、新たな緊急課題となっています。本日、「コーポレートレポーティングダイアログ」の参加者は、これを実現するためのコミットメントを明確にしました。」

Bloomberg 社 Global Head of Sustainable Business & Finance である Curtis Ravenel 氏は、「ここ数年の企業レポートの進歩は、ビジネスがバリューチェーン全体でどのように機能しているかをより深く理解することにつながっています。そのような透明性の高い開示こそが、世界市場に利益をもたらすのです。しかしながら、開示を改善するための努力がなされるにつれて、さまざまな指針、枠組みおよび基準が存在してきました。Bloomberg では、組織が市場と明確に、簡潔に、効果的にコミュニケーションできるよう支援しています。そのため、このプロジェクトをサポートできることをうれしく思います。これにより、企業のレポート作成環境における連携が強化されます。

Bloomberg Philanthropies がこのプロジェクトに資金を提供している。

\* FASB (財務会計基準審議会) は、「コーポレートレポーティングダイアログ」にオブザーバーとして参加しています。

## 挑戦、議論、激励、 そしてお互いから学ぶ： パリで開催された 「統合報告ビジネス ネットワーク」会議から 私たちのレポートを読む

IIRC の統合思考・戦略グループは、新しい報告書で重要な洞察を発表し、そこで統合された思考を発展させることの重要性と、それを国際的に定着させるための次のステップを示している。

この報告書は、2018年10月4~5日にパリの Deloitte France Greenhouse で 50 以上の団体が一堂に会した同団体の最新会合から得た知見を共有している。報告書では、「財務資本が唯一重要な資本であるという考え方に戻ることはできません。」との意見を述べたように、企業が他社から学び、お互いに挑戦し、さらに良くなるよう進んでいるストーリーを共有した。



このレポートでは、企業が自らの組織の中でこの取り組みを進めていくための次なるステップとして、統合思考へのアプローチを定義し、組織の戦略的意思決定への影響を調査し、統合的思考を実践に取り入れる方法を提言している。

「統合報告ビジネスネットワーク」の統合思考・戦略グループは、世界で最も革新的な企業をいくつか集めて、協力し合い、学び

合い、お互いの考えに挑戦し合い、自分自身とそれに従う人々  
のための主導的な実践を共有することができるようにしている。

参加方法の詳細については、電子メールでお問い合わせくださ  
い。

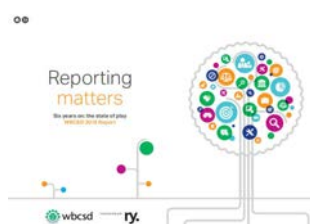
[businessnetwork@theiirc.org](mailto:businessnetwork@theiirc.org)

## 世界中の取締役が 統合報告に注目している



初の調査となる「グローバル・ディ  
レクター・サーベイ 2018」での  
結果によると、統合報告は世界的  
に最も利用されている報告の枠組  
みの一つであり、調査対象企業の  
15%が「国際統合報告フレームワ  
ーク」を利用していると報告しており、  
価値創造に関する報告が国際的に  
成長していることを示している。

この調査報告書は、財務情報のみならずより包括的な企業報告  
の枠組みを求める世界的な傾向があることを裏付けている。



一方、持続可能な開発のための  
世界経済人会議 (WBCSD) の  
「2018 年報告に関する事項」も  
同様の結論を導き出しており、近  
年、企業がよりバランスのとれた  
報告方法を採用するようになって  
きたことから、統合報告は大きな進歩を遂げた結論づけた。

同調査報告書は、統合報告への移行が有益であることを示唆し  
ており、財務情報とサステナビリティ情報を組み合わせたレポー  
トは、調査対象となった上位 10 件のうち 8 件を占めており、  
上位 4 分の 1 企業の約半分となっていると結論づけている。

WBCSD のメンバーが発表した報告書の 18% (2014 年の 8%

から増加)は、自己申告による統合報告書であり、さらに多くの「旅の途中の」組織が統合報告書を作成していることが証明されている。また、報告書の33%は財務情報と非財務情報を組み合わせて検討されており、完全に統合された報告書を作成する前段階とみなされている。

## IIRC、「企業向け ESG 報告のための投資家アジェンダ」を歓迎

IIRC は、企業向けに ESG 報告のための投資家アジェンダを発表することを歓迎する。これは、ESG 報告に投資家が何を必要としているかを明確に説明するために、投資家が協力した結果である。

レポートには、投資家グループが統合報告を「理想的な最終目標となる」ように検討すると述べている。

この発表は、2016年4月に開催された IIRC での活発な議論の結果であり、投資家団体は、ESG 報告への期待に関して明確で説得力のある声明を出すために協力するよう求められた。

投資家団体は、ESG 報告のための統一されたアジェンダを推進するための対話における組織の重要な役割を認識し、本報告書を作成するために、コーポレートレポーティングダイアログの参加者と緊密に協力した。

IIRC の CEO である Richard Howitt は、次のように述べている。「投資家たちが統合報告や業績について尋ね始めていることを企業側から伝わってきています。私たちが発表したように、これは、より広範な価値創造についてステークホルダーとコミュニケーションすることの利点を示す無数の学術的研究によって裏付けられています。投資家団体によるこの新しい論文は、これらの研究が正しいことを明らかにしています。投資家はこの情報を銘柄選択、スクリーニング、リスク管理の評価に利用しています。これらの要因に関する報告は、経営陣が真剣に取り組んでいることを投資家に示しているのです。



私は、この報告書を作成した投資家団体に感謝の意を表します。市場は ESG 情報の重要性について投資家からの統一した声を必要としていました。このレポートは、私たち全員が学ぶことのできる明確な旅の方向性を示しています。

コーポレートレポーティングダイアログの招集者である IIRC は、企業報告分野における論理性、一貫性、比較可能性を積極的に推進することを約束しています。私たちは、グローバル投資家組織委員会と協力することを楽しみにしています。」

コーポレートレポーティングダイアログの議長である Ian Mackintosh 氏は、「私たちは、主要な投資家による ESG 報告のアジェンダに関する報告書を強く歓迎し、この報告書を対話の更なる作業のための貴重なインプットします。」と述べた。

## オーストラリアの 上位 200 社のほぼ半数が、 統合報告の原則を 採用している



KPMG Australia が ASX 200 の第 5 回企業報告動向調査を公表した。調査によると、オーストラリアの上場企業の半数近くが、株主やその他のステークホルダーにどのように価値を創造しているかをより良く伝えるため、統合報告の原則を採用している。この報告書は、オーストラリアの変化の推進要因を調査し、組織が取り得る次のステップに焦点を当てている。また、オーストラリアでにおける企業報告の優良事例も示している。

報告書の主な所見：

- 調査対象となった企業の 48% が、株主やその他の利害関係者のための価値創造に関する報告に焦点を当ててお

り、これは 2017 年の 25% から増加している。

- ASX コーポレート・ガバナンス・カウンシルの改訂版コーポレートガバナンス原則および推奨事項 (ドラフト第 4 版) には、企業報告書に記載されている内容を検証するプロセスの厳格さに取締役会が注意を向けることについて、企業報告に関する推奨事項が含まれている。
- オーストラリアの上場・非上場組織では、統合報告の原則を採用する動きが続いている。Qantas、Brambles、AGL、ANZ、Stockland、NAB、GPT、レンデリースは一連の年次報告で統合報告の原則を参照している。
- 情報の結合性を促進するためにテクノロジーをどのように使用できるかなど、革新的なレポート作成の例が出てきている。

## 持続可能な開発目標への 貢献を実証するための 統合報告の利用

IIRC の CEO、Richard Howitt は、第 35 回会計・報告の国際基準に関する専門家作業部会 (ISAR) を開き、次のように述べた。

*「SDG の達成に残された時間は短い。」*

*「SDGs を達成するまであと 4086 日しかないのだ。これは、レオ・トルストイが『戦争と平和』の 1,300 ページを書くのにかかった時間と少しの時間に過ぎない。」*

*「SDG の統合された事業報告のために、私たちは次の 12 年間をもう一つの『戦争と平和』を書くことに費やす余裕がありません。代わりにもっと良い世界を書きましょう。」*

スピーチの中で、Richard Howitt は、統合報告の世界的な進歩、IIRC の世界的な採用に向けた戦略における新しい「モメンタム・フェーズ」の立ち上げを概説し、異なる報告基準の整合が真の統合報告の鍵であることを強調した。

スピーチの全文は、[UNCTAD のウェブサイト](#)で入手できます。

## アフリカ統合報告会議は、 地域における統合報告の 普及を促進する

2018年10月9日に開催されたこの会議には、アフリカ大陸13カ国から100人以上の代表者が集まった。

IIRC の名誉会長である Mervyn King 教授は、「アフリカ諸国が統合報告を開始することは、アフリカ大陸の利益にかなうことでしょう。さらに、組織が長期的に価値を創造する能力について、より完全でより良い全体像を提供できるようにすることは、組織の価値の20%（財務の）を監査するだけでなく、重要な残りの80%（無形の）を監査することにもつながると思います。」

このイベントは、世界銀行グループとアフリカ会計士協会の共同事業であるアフリカ統合報告委員会が主催した。世界銀行グループの Patrick Kabuya 氏は「世界銀行は改革に影響を与え、支援する上で重要な役割を果たしています。統合的な報告を促進するためのツールの開発とイベントの開催も行っています。」と述べた。

投資を呼び込むためのツールとしての統合報告への関心が高まるにつれ、地域ネットワークがジンバブエとボツワナで開始された。

モロッコでも採用が進んでおり、Moroccan Authority of Capital Markets の企業財務・マーケット担当の Nasser Saddiqi 氏によると、「モロッコでは現在、30の上場企業が統合報告を採用しています。」と述べている。

## オランダにおける 価値創造への一層の注力

Eumedion という、投資家主導のコーポレート・ガバナンス改革団体は、オランダの上場企業に対し、統合報告の重要な概念である価値創造の報告を強化する年次書簡を発行した。

これは、企業の長期的な価値創造をより重視し新たに改訂されたオランダのコーポレート・ガバナンスコードに従ったものである。コードは、取締役会に対し、長期的な価値創造に関する見解とその実現のための戦略について、より詳細な説明をマネジメントレポートに盛り込むことを求めている。

Eumedion は 企業に対し、Randstad と Royal Philips の報告書をハイライトしながら、価値創造に関する報告でリーダーの「気づき」を奨励し、どちらの組織も、「国際統合報告フレームワーク」を用いて報告を行っている。

書簡は、統合報告書作成者が検討するための「チェックリスト」を提供し、プロセス中に考慮できる実用的な質問を提供している。

## エンバנקメントプロジェクト レポートの発行

IIRC は、Coalition for Inclusive Capitalism と EY の共同事業体であるエンバנקメント・プロジェクトの発足を歓迎した。

IIRC のボード議長である Barry Melancon 氏、と IIRC の CEO である Richard Howitt は、このプロジェクトの諮問委員会に参加しており、この報告書は、企業が価値創造のストーリーを統合報告書の中で語るための指標を提供する有用なツールとなっている。

IIRC の CEO、Richard Howitt は、次のように述べている。

「IIRC は、エンバנקメント・プロジェクトの活動を支援し、投資家が組織のより広範な価値創造につながるデータを理解し、比較し、利用できるような指標を開発することを歓迎しています。過去 10 年間、IIRC は、価値創造について市場が考え、行動し、コミュニケーションする方法を進化させるために、システムの変革を推進してきました。



この作業を成功させるためには、このようなプロジェクトは、統合されたレポートに価値に関連するデータが確実に含まれるようにするために不可欠です。

私たちは、IIRC 理事会のすべての参加者に代わって助言と支援を提供することができたことを誇りに思い、この作業を前進させることにコミットしています。私たちは共に資本市場を変化させ、長期的な報酬、急速に変化するリスクにおける価格設定の改善、包括的資本主義の目標の推進を確実にすることができます。」

## IIRC、「統合報告トルコネットワーク (ERTA)」と協定締結

トルコでは、Borsa Istanbul, TSKB, Garanti Bank や Çimsa などの企業を台頭に、「統合報告」の原則を研究し、採用する組織が増えており、IIRC は、ERTA(「統合報告トルコネットワーク」との合意に署名した。私たちは共に、ガイダンス、調査、及びベストプラクティスの共有を通じて、トルコにおける統合報告採用を促進する。

ERTA の議長である Güler Aras 博士は、「トルコでは、人間、社会、自然、知的資本といったより広範な価値の推進要因が、企業が直面するリスクと機会、ひいては企業の将来の存続可能性を理解する鍵であるという理解が高まっている。



「ERTA では、次のようなトルコを代表する団体を集めました。Borsa Istanbul、トルコ産業・ビジネス協会 (TÜSIAD)、持続可能な開発のためのビジネス・カウンスルトルコ (BCSD Turkey)、およびトルコ・コーポレート・ガバナンス協会は協力して、この新しい考え方、行動、コミュニケーションの方法を採用する際に、統合された報告と支援のビジネスの意識を高めています。

私たちの目的は大胆なもので、トルコのすべての機関と企業が統合思考と統合報告を確実に採用することです。私たちは IIRC と協力してこれを達成し、トルコに統合報告の利益をもたらすことを期待しています。」



Contact: [juliet.markham@theiirc.org](mailto:juliet.markham@theiirc.org)

Copyright © 2018 International Integrated Reporting Council, All rights reserved.  
[unsubscribe from this list](#) [update subscription preferences](#)  
[IIRC Privacy Policy](#)